

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成26年2月(2014年) No.578

丹波篠山全国ビデオコンテスト 3年連続OMC会員がグランプリ受賞!!

一昨年は、わが大阪ムービーサークルの前田茂夫氏が「炎に挑む」で、昨年は黒田敏彦氏が「家族で受け継ぐ無形文化財」で、そして今回は、「最後の田んぼ」で合原一夫氏がグランプリを受賞されました。OMC会員が著名な全国コンテストに3年連続グランプリを獲得したということは、この伝統あるOMCでも特筆すべきニュースです。おめでとうございます。

■過去にもキャノンコンに3年連続の記録が…

調べてみますと8ミリフィルム時代、キャノン8ミリ映画コンテストで3年連続受賞の記録がありました。

- ・昭和46年 フジ8ミリコン・グランプリ 「おくにさん」 川畑建二氏
- ・昭和53年 キャノン8ミリコン・グランプリ 「出会い」 川畑建二氏
- ・昭和54年 キャノン8ミリコン・グランプリ 「煙の挽歌」 有村 博氏
- ・昭和55年 キャノン8ミリコン・グランプリ 「紙漉き五十年」 前田茂夫氏
注) 川畑建二氏はOMCの前々会長で、数々の受賞歴のある方でした。

OMC年度大賞は河口氏の「演歌と共に」が受賞

今年の総会にて、年度賞の発表が行われ次の方が表彰されました。

- ・年度大賞 河口禮志さん「演歌と共に」 表彰状、トロフィー
- ・年度優秀賞 山本正夢さん「ダージリン」 " "
- ・年度秀作賞 井上勝彦さん「ビクトリア滝」 " "
- ・奨励賞 渡辺雄史さん「和歌山城」 " "
- ◎OMC会長賞 有村 博さん「絆で帰郷」 " "

その他、全例会出席賞、全例会出品賞などの表彰があり、それぞれ記念品としてBD・RディスクやミニDVテープが贈られました。

2月例会のおしらせ

2月例会は第4土曜 22日午後6時より難波市民学習センターにて開催します。撮影会のこと等追加説明があるかも知れません。いずれにしても楽しい月一回の例会です。皆で集まって楽しい例会にしましょう。

■平成25年度 全例会出席者

有村、江村、紙本、河合、合原、進藤、関、高瀬、華岡、前田、森下、山本の12名

■11回出席者：宮崎

■全例会出品者：有村、江村、紙本、華岡、前田、山本の6名

■11作品出品者：進藤、高瀬の2名

以上例会を活性化させて頂いたお礼として、ささやかながら記念品を贈呈し拍手で感謝の気持ちを伝えました。皆さんお元気で今年もご活躍ください。

OMC 26年度一泊撮影会

今年度は河合さんを企画の中心として江村さんが補佐役をつとめられ、いろいろと準備を頂いております。既に詳しいご案内があり申し込みも終わられたと思いますが、一応要旨を下記に記します。

- ・日時 H26年5月8(木)～9(金)
- ・場所 友が島と加太港界限
- ・対象撮影テーマ 友が島の自然と要塞跡
- ・集合 南海難波駅5番ホーム 8:30am
- ・乗車列車 特急サザンクロス和歌山行
8時43分発車自由席。終点
和歌山で加太行きに乗換え、
加太駅より徒歩15分で加太港へ
- ・乗船 港から友が島行連絡船に乗船、11
時発、約25分で友が島到着
- ・費用 15,000円
- ・コンテスト 7月例会日の午後より予定

1月例会レポート

今年始めの例会は第3日曜1月19日に難波市民学習センターで開催、例会の後、総会と各種表彰式が行われました。

今月の司会は合原氏、書記、河合氏、上映担当、井上、江村の両氏、受付兼照明係は華岡、紙本両氏の担当で進行しました。

■出席者：有村、井上、江村、江藤、岡本、紙本、河合、河口、黒田、合原、進藤、関、高瀬、華岡、野田、前田、宮崎、森下、森田、山本、吉岡、吉村、渡辺の23氏。

■作品上映：今月の講評は河合世話役です

1. 寒牡丹か！冬牡丹か！（BD）

有村 博 7分30秒

二上山の麓にある古刹、当麻寺は春の牡丹、石光寺は寒牡丹の名所として有名でした。今の当麻寺の「冬牡丹」は、寒牡丹と同じ品種乍ら、春夏に寒冷地で開花を抑制栽培し、更にガラス室で温度調節をすることで冬の一定時期に揃って咲かせるのが売り物だそうです。言わば「自然を尊重する栽培」と「優れて人工技術による栽培」の違いと言えましょう。作者は「冬牡丹の方が一斉に咲いて豪華」と軍配を上げ、「あなたはどちらを取るか」問いかけておられます。私は「寒さに向かって凜と咲く寒牡丹」のほうに惹かれますが。

2. 晩秋の有馬散策（BD）

吉岡貞夫

9分47秒

有馬の紅葉と言え先ず瑞宝寺公園、一昨年の撮影と伺いましたが、その公園を皮切りに有馬の紅葉を隈無く紹介されています。赤い紅葉に白い石像物を交えて画面に変化をつけながら、有馬の名所旧跡を克明に辿り、流石ベテランの味と感心させられるカットを重ねて、丁寧に有馬を描かれています。楽しく拝見しました。

3. 倉敷ぶらり散策（BD）

前田茂夫

9分45秒

作者は、倉敷に本店がある企業に長年勤められ、何回となく研修その他で倉敷の地を訪れられていました。今回、嘗ての同僚の葬儀で38年振りに倉敷を訪ねられ、町の変貌を目の当たりにして、思い出を現在の町並みに重ねながら、あふれ出る感懐を次々と語られます。伺いますと撮影時間は半日ばかりとか、土地勘のあるところだけに撮影も捗ったのでしょうが、それにしても俯瞰の画面、露地の風景など豊富なカットを駆使しながら、思いの丈を存分に語られて、素晴らしい作品に仕上がっていると思いました。ただ、タイトル「倉敷ぶらり散策」は内容に比し余りにも素っ気ないと、残念な気持ちになったのは私だけでしょうか。

4. 晩秋の美山かやぶきの里（BD）

高瀬辰雄

7分30秒

久しぶりに映像で拝見する「茅葺きの里美山の北村の部落」は、落ちついた晩秋の

貯まいを見せ素晴らしい景観を示していました。ところが、突如沢山の観光客があふれ、カメラマンが放列を敷いている画面に変わります。「何が始まるのだろうか？」とテロツフ。やがて茅葺きの部落の屋根の間から水煙が上がり始めました。防火用の放水銃の放水訓練が始まったのです。嘗て13年前、北村にあった「200年の歴史を誇る茅葺の建物・民俗資料館」が、原因不明で一夜にして焼失しました。ニュースが流れ、私も飛んで行って、愕然とした思い出が今も甦ります。2年かけて資料館は復元され、それ以来防火設備が充実され、放水訓練が年2回行われて風物詩となっているようですが、それにしても防火訓練を種に観光客を集める北村部落の商魂と、物見高いアマチュアカメラマンには驚きました。

5. ヴィリニウス (BD)

華岡 注

11分17秒

地中海から南アフリカ、更に中央アジアからバルト3国と作者の旅はつづきます。バルト3国となると私の知識では、精々大相撲の把瑠都を思い出す位で、リトアニアの首都ヴィリニウスという町の名は、初めて耳にするという始末です。珍しい町の風景や、歴史ある素晴らしい教会建築を見せて頂いても、ナレーションについてゆくだけが精一杯でした。もし映像に出て来た記念碑の「杉原千畝の物語」を聞きながら、映像が展開したら、もっと親近感をもって、リトアニアの国とヴィリニウスの町に溶け込めたかも知れません。

6. シツキムの旅 (BD)

山本正夢

6分20秒

インド北部のシツキム州はヒマラヤ南麓のネパールとブータンのあいだに位置する山岳地帯、宗教的にはチベット仏教の国でありながら、ヒンドゥ教徒であるネパール人が75%を占めるという、「インドでありながらインドではない」と言われる地帯であることを、山本さんは作品の最初で「ここに入るにはビザの他に入域許可証というものが必須」との1カットで暗示されます。州都ガントクムは標高1780mの高地にあって世界第3峰カンチェンジュンガ8598m

が望める街、ルムテク・ゴンバはチベット仏教・カルマ派の大本山、エンチェイン・コンパは同じくニンマ派の僧院、僧侶の服装とマニ車でチベット仏教の寺院とわかります。山本さんは、この珍しい地域の風景と風俗を彼独特のタッチで描いて観衆を魅了してしまいます。

7. 因幡街道平福宿 (BD)

紙本 勝

13分10秒

霧の中を上郡行きの鈍行があらわれ、去って行く。智頭急行の平福駅です。ここから作者は標高373mの利神山に「利神城址」を訪ね、霧に包まれた利神城歴史物語を展開されます。豊臣秀吉の中国征伐で、毛利方の別所一族のことは知っていても、その渦中にあった城が利神城であったことを私は知りませんでした。霧の中で、古びた石垣、荒れ果てた城跡を克明に描いて、すばらしい「天空の城」の作品です。ところが、この城はもう一つ、すばらしい宝物一城下町を持っていました。これが宿場町平福宿として発展します。紙本さんはこの町も捨てきれず、とうとう日が暮れるまでこの町と付き合い最終電車(?)でENDマークがでてきます。

どれも捨てきれない場面、カットばかりですが、矢張り盛沢山に過ぎてテーマが散漫になっていないでしょうか。例えば、「平福宿から昔を偲んで雲海がたたなびく中国山脈と利神城に想いをはせる」といった編集で8~9分の作品にするとといったことは、どうでしょうか。

8. 初詣三社 (BD)

進藤信男

8分55秒

毎年1月の例会には恵方の神社に初詣をする作品をお持ちになる作者は、今年は3つも参詣されました。そのうちの一つ、「為那都比古神社」では、参拝者が多くて本殿に到着するのに1時間もかかったとか、驚きました。どんな神社か知らなかった私は、少し調べてみました。作者が住まいされる箕面一帯は、弥生時代の銅鐸が発見されたり、古墳時代の遺物が発掘されるなど、古くから開けた先進地帯でした(平凡社「大阪の地名」)。「為那国」があったかどうか

かの疑問が残りますが、大和政権が成立したころには（日本書紀仁徳天皇紀に出てくる）「猪名県」は存在していたと考えて間違いないでしょう。

この「為那（或いは猪名、為奈）県」に君臨したのが、「為那氏と称する豪族」であり、（為那氏が物部氏に属するというのはいささか疑念がのこりますが）「為那都比古命が祖先神、として村人達の信仰を集めてきた「産土神」であったことは疑う余地がありません。「為那県（国）の版図がどれだけあったか、文献を追っかけましたが、その記載は見つかりませんでした。しかし、延書式をひもとくと、このあたりで記載されている式内社は、為那都比古神社二座と豊島郡五座（大二座）しかありませんから、北摂地帯一帯から多くの信仰を集めて、今の盛業に至っているに違いないと納得しました。

9. 祭礼の日 (BD)

江村一郎

7分0秒

J R 御坊駅と御坊市中心部とを結ぶ 2.7km という日本一短いローカル鉄道「紀州鉄道」が再び登場しました。この鉄道が最初にクラブの例会で紹介されたのは、随分前のことのような記憶があります。そのころと比べ線路には草が生い茂り、レールは曲がりくねってきたような気がします。運行は大丈夫かと心配になります。

今日は御坊のお祭り。村の人々が踏み切りを横切り、線路を伝ってお祭りに集まって来ます。やがてお祭りの行列が踏切を横切り、馬に乗った神主さんも神輿も踏切を横断します。その間レールカーは温和しく待っています。総てお祭り優先のようです。江村さんの映像で出てくるのは、線路と踏切、露地から見える堀端の風景や古びた町通りが少し、それでいて嬉々としてお祭りに駆けつけてくる村人達の顔や姿を、的確に浮かびあがらせています。実はこの祭は御坊祭といって御坊市の大きな祭なのです。それが江村さんの魔法の手に掛かると、村人達の素朴な、心暖まる祭に変身しています。江村さんの腕の素晴らしさを見せつけられる作品です。本物の賑やかで豪華な

祭はユーチューブでどうぞ。

10. 鶴 (DVD)

河口礼志

25分16秒

1年振りに河口さんの登場です。旧作の8ミリをテレシネしてDVDに記録されたものとか。嘗てツルは日本各地に飛来していたといいます。ところが乱獲や各種の迫害で姿が見えなくなり、今では山口県熊毛町（現在は周南市）八代は本州で唯一のナベツルの渡来地ですが、それは「陰で住民の人情によって支えられてきたからなのだ」と作者は主張します。村人の熱意と苦労を克明に記録し、ツルを子供のように愛する人々の生きざまを、余すところなく描写されたのがこの作品です。それでも渡来するツルの数は減少の一途とか。借越ながらこの作品はドキュメント作品の絶品だと拝見しました。「刻（とき）を超え、処を越えて、後世に残すべきアーカイブス作品」として何時までも大事にされ、時には地元で公開されて、ツルが観光化に汚されることなく、村人達の心に永久（とわ）の記憶として留められるよう願って已みません。

11. オランダの友人家族訪問 (BD)

江藤洋司

7分44秒

作者は1年前にドイツで出会った友人を、今回オランダに訪ねられました。その映像記録を編集するに当たって、昨年2月OMC Newsで指摘された諸点を活かそうと、一生懸命取り組んでおられる姿がこの作品で伺えて、素晴らしいことだと感心しました。映像に筋道をつけ物語を構成することは出来たようですが、今度は映像を見て頂く人によく理解して頂くための工夫が要するようです。例えば、ナレーションを誰が聞いても解るようによようにすることが大事でしょう。そのためにはナレーションの「文言を工夫する－何度も作り直す」、「発音の練習をする」、「ナレーションで通じないところはテロップで補う」といったことに取り組まれたら良いでしょう。もう一段更に努力することで、見て頂く多くの人達に分かってもらえるようになる。そうすれば作品作りが一層楽しくなるに違いないと思います。ご健闘を祈ります。